

平成27年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. <平成27年度法人ヴィジョン>

- ①経営の強化
- ②サービスの質の向上
- ③教育システムの充実

2. <目標>

<ケア部門>

①情報伝達システムの構築

- A) リーダー、主任を経由し組織的に報連相ができるシステム構築

以前は同じ部署で一緒に勤務をした事のある主任と副施設長でさえも、他部署での勤務を経たことから認識の違いが生まれ、上手く報連相が取れていないことが、開設から時間が経過するに従い現れてきており、次年度の課題となっている。

②物品管理

- A) 新たな物品においては事務所を経由し各部署へ配置
- B) 整理整頓（各フロアで統一した場所での管理）

事務所を経由するシステムは構築できたが、各フロアに入居されているゲストによって必要となる物品も異なることから、物品の量も各フロアでバラバラとなり、保管場所も同様で統一ができなかった。今後、物品量の確認から行っていく必要を感じている。

③基本的ケアの徹底

- A) 簡素で誰もが使用できるマニュアル作成
- B) 各マニュアルの管理者を決定し定期的な見直しを実施
- C) マニュアルに基づいた職員教育

開設前にマニュアルに基づいて研修を実施したが、各フロアに既存施設からの職員を配置することができなかったこともあり、マニュアルに基づいたサポートが行なわれているのかの確認が困難であったことから、中心となる介護職員を育てていくことに力を注いだ。

④職場環境の整備

- A) 意見を出し合える場所の提供
- B) オフサイドミーティングの実施

各々の職員が意見を出せるよう、各フロアで毎月会議(フロア会議)を開催した。また、食事会なども開催し職員間の関係性の構築を図った。

<経営部門>

①加算取得

- A) 次年度へ向け加算取得の検討・体制構築

新たな加算取得よりも、サービス提供体制強化加算の算定要件を維持することが課題となっている。

<相談援助部門>

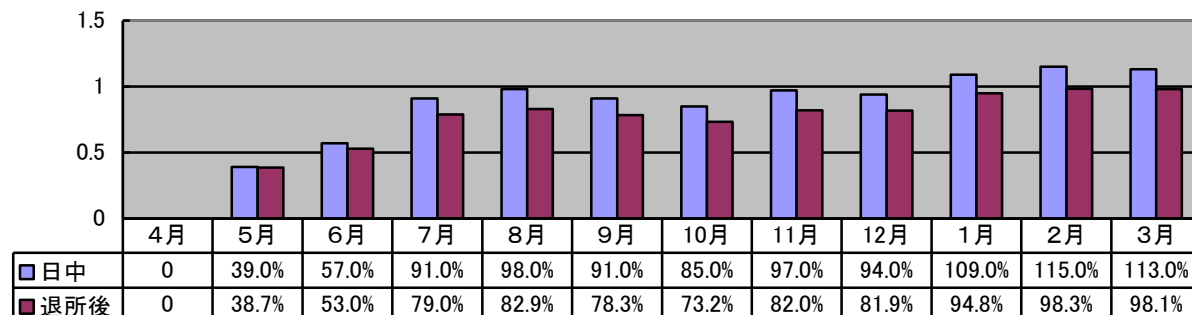
①事業所への定期的な報告実施

- A) サービス担当者会議への参加

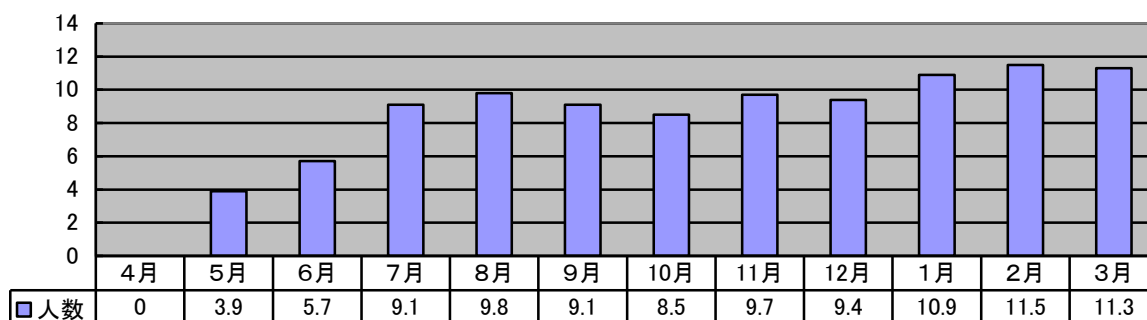
B) モニタリング報告のシステム整備

居宅介護支援事業所との関係性の構築の為、計画に盛り込んだが、大慈ショートステイで主任を経験した者を相談員としたことで、スムーズに行なえリピーターとなっているご利用者も多く獲得できた。

●充足率→日中89.9%、退所後78.2%



●平均人数→日中9.0人、退所後7.8人



●介護度別年齢別等人数表（平成28年3月31日時点での実人数）

平成27年度				
要介護度	合計人数	男	女	平均
要支援1	0	0	0	
要支援2	4	0	4	78.8歳
1	11	3	8	86.1歳
2	18	6	12	85.1歳
3	19	4	15	84.8歳
4	20	9	11	84.2歳
5	10	2	8	85.6歳
合計	82	24	58	
平均介護度		3.0	2.9	3.0
平均年齢		80.6歳	86.3	84.7歳
最高年齢		92歳	102歳	
最少年齢		58歳	48歳	

3. 《行事等の実施内容・反省点》
 4. 《会議の実施内容・反省点》 } 智音園同様

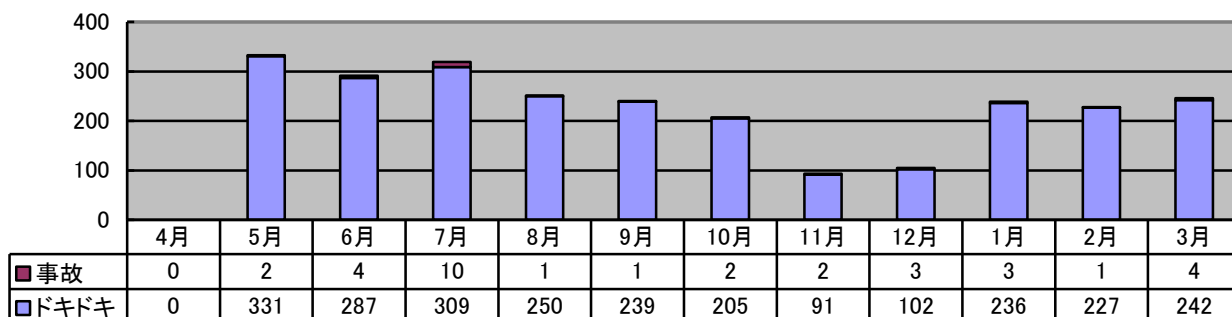
5. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

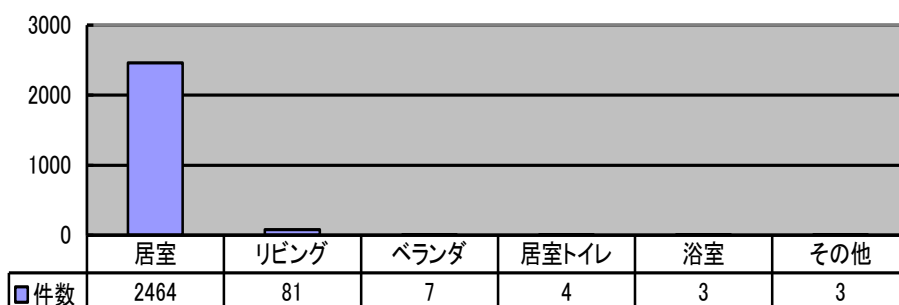
ドキドキ報告書の件数が2,519件と多いが、臥床後の動き出しによるセンサー反応のからの件数によるものである。

平成27年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
		2,552件	33件



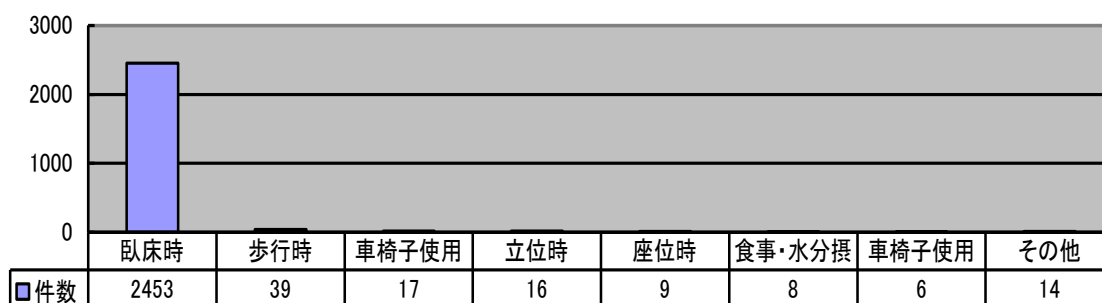
②発生場所別件数

ドキドキ報告書において臥床後のセンサー反応からの件数が最も多い為、居室の件数が突出して多い。



③発生状況別件数

入居の件数と比べると、車椅子（移動時）の件数が少ない。ショートステイということもあり歩行にて移動できる方が多いことが伺える。



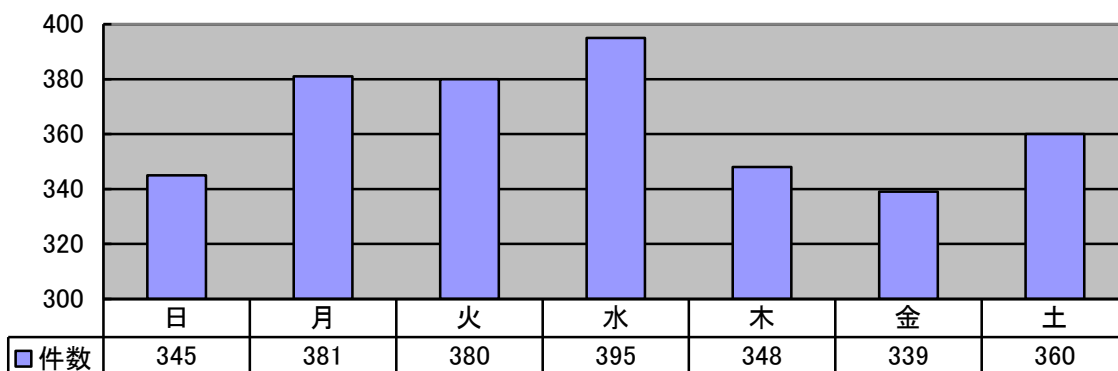
④発生内容別件数

転倒、転落、滑落の報告は入居同様多いが、入居では割合として少ない離園等の報告の割合が多い。ショートステイという性質を現すものである。



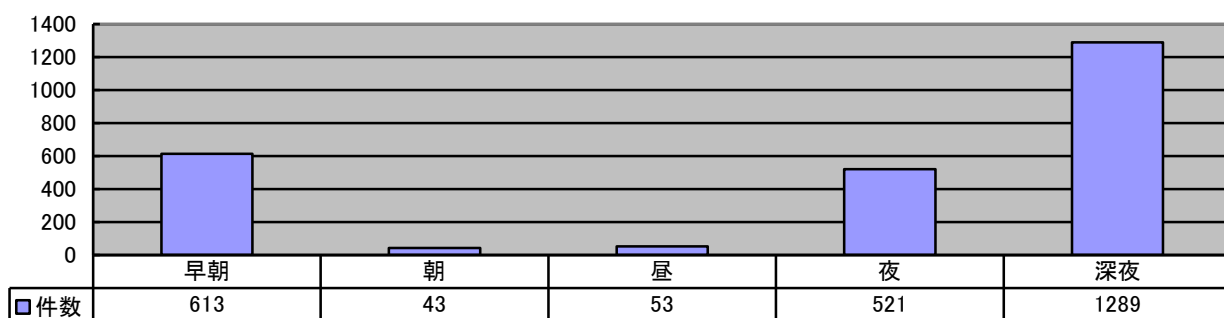
⑤曜日別件数

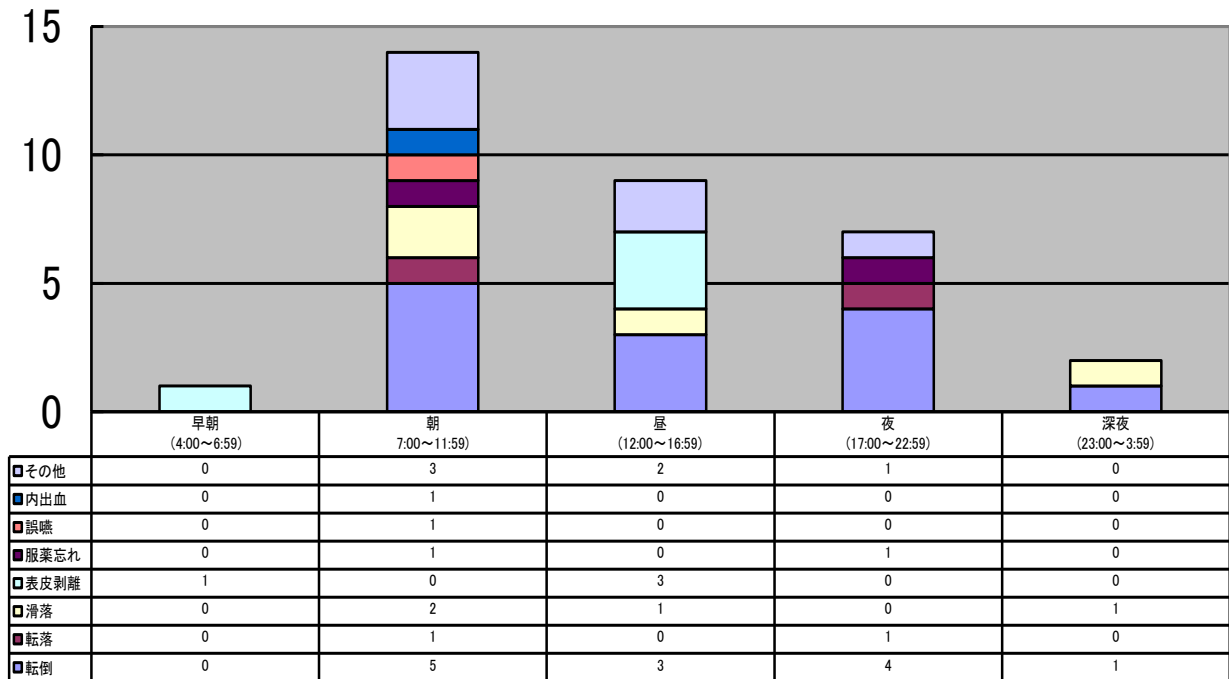
どの曜日も300件台半ばから後半であり、曜日として大きな変化はない。



⑥時間帯別件数

入居同様、ドキドキ報告においては、臥床後の動き出しからセンサーが反応したものが最も多い為、夜から早朝にかけて多くなっている。その反面、事故においては日中が多く、ゲストの活動から事故に至っているケースが多いことを示している。





⑦まとめ

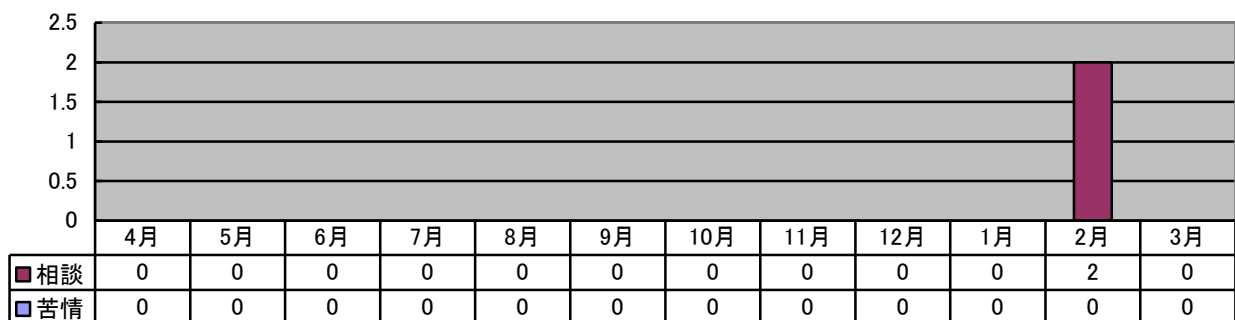
ショートステイにおいても、ドキドキ報告書の件数は夜間に多いが、事故報告書の件数は日中に多い。これは、臥床後の動き出しによるセンサー反応の件数が多いこと、経験の浅い職員が多くドキドキの視点が弱いことから逆転現象が生じているものと考えられる。次年度は日中のドキドキ報告書の件数の増加を目標とし職員の視点を強化してゆきたい。

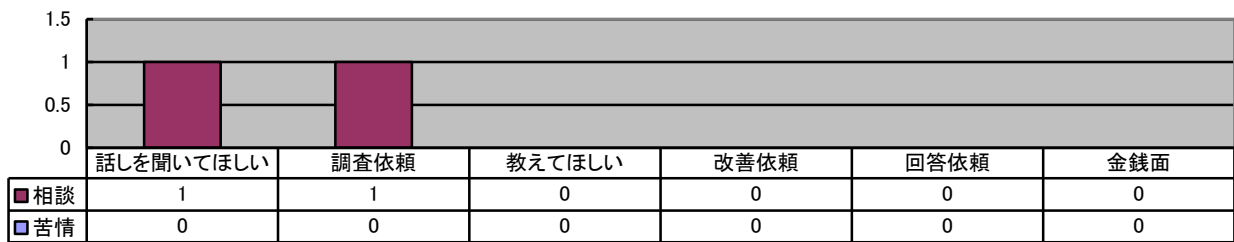
6. ≪ 苦情・相談結果報告 ≫

苦情の定義・・・施設長が直接対応した件を苦情とする。

● 報告件数

平成27年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	2件	0件	2件





● 主な内容

ソフトウェアの整備が行き届いていないことからの相談もあったが、認知症のご利用者がお迎えの車を待てない等、ショートステイ特有のものも見られた。

● まとめ

年間を通じて報告件数が2件と少ない。報告書に上がってきていない細かな相談などが存在していると考ええる。ショートステイにとってリピーターを獲得していくことほど大切なことはない。次年度は報告件数の増加を図り、一つ一つ改善を図っていきたい。

6. <<総括>>

ショートステイにおいては5月から稼働。稼働当初、認知症の周辺症状の強いゲストの対応が困難で、職員の離職が相次いだ。主任相談員が一人一人の職員と話しを行なっていくことで落ち着きを取り戻し、徐々に充足率も上昇した。

また、ショートステイはご自宅で生活をされている方を対象としていることを念頭に置き、非日常的な時間を提供する観点から、楽しみの提供とADL低下の予防を図る為、レクリエーションの実施等にも力を注いだ。

その結果、リピーターの確保につながり、退所後の利用人数が定員を割る日が僅かとなるまでの充足率にすることができた。

次年度は実際に行なっているレクリエーション等のアピールに努め、新たな顧客獲得を図っていきたいと考える。